

大学番号：069

注3

[令和2年度設置]

計画の区分： 研究科の専攻の設置又は課程の変更
注1

意見伺い

香川大学大学院医学系研究科 臨床心理学専攻（修士課程）

注2

【意見伺い】設置に係る設置計画履行状況報告書

国立大学法人香川大学
令和2年5月1日現在

作成担当者

担当部局（課）名 医学部総務課

職名・氏名 課長補佐・土肥 光雄

電話番号 087-891-2007

（夜間） 087-891-2007

F A X 087-891-2016

e-mail syokacho@med.kagawa-u.ac.jp

(注) 1 「計画の区分」は設置時の基本計画書「計画の区分」と同様に記載してください。

2 大学院の場合は、表題を「〇〇大学大学院・・・」と記入してください。

設置時から対象学部等の名称変更があった場合には、表題には現在の名称を記載し、その下欄に（ ）書きにて、設置時の旧名称を記載してください。

例) 〇〇大学 △△学部 □□学科

(旧名称：◇◇学科(平成◇◇年度より学科名称変更))

表題は「計画の区分」に従い、記入してください。

例)

- 大学の設置の場合：「〇〇大学」
- 学部の設置の場合：「〇〇大学 △△学部」
- 学部の学科の設置の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科」
- 短期大学の学科の設置の場合：「〇〇短期大学 △△学科」
- 大学院設置の場合：「〇〇大学大学院」
- 大学院の研究科の設置の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科」
- 大学院の研究科の専攻の設置等の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科 〇〇専攻(修士課程)」
- 通信教育課程の開設の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科(通信教育課程)」

3 大学番号の欄については、調査対象大学等に対して別途発出する、事務連絡「令和2年度の履行状況報告書の提出について(依頼)」の別紙に記載のある大学番号を記載してください。

目次

香川大学大学院医学系研究科

| ＜臨床心理学専攻＞ | ページ |
|-------------------|-----|
| 1. 調査対象大学等の概要等 | 1 |
| 2. 授業科目の概要 | 5 |
| 3. 施設・設備の整備状況、経費 | 9 |
| 4. 既設大学等の状況 | 10 |
| 5. 教員組織の状況 | 13 |
| 6. 附帯事項等に対する履行状況等 | 22 |
| 7. その他全般的事項 | 31 |

1 調査対象大学等の概要等

(1) 設置者

国立大学法人香川大学

(2) 大学名

香川大学大学院

(3) 調査対象大学等の位置

〒761-0793
香川県木田郡三木町大字池戸1750番地1
(〒760-8521
香川県高松市幸町1番1号)

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を()書きで記入してください。
・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

(4) 管理運営組織

| 職名 | 設置時 | 変更状況 | 備考 |
|------|-----------------------------------|------|----|
| 学長 | (カケヒ ヨシユキ) 笥 善行 (平成29年10月) | | |
| 理事 | (イマイダ カツミ) 今井田 克己 (平成31年4月) | | |
| 研究科長 | (ウエダ ナツオ) 上田 夏生 (平成29年10月) | | |

- (注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を()書きで記入してください。
(例) 令和元年度に報告済の内容 → (元)
令和2年度に報告する内容 → (2)
・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載(昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正)するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。
・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

(5) 調査対象学部等の名称、定員、入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部等の学科または研究科の専攻等、定員を定めている組織ごとに記入してください(入試区分ごとではありません)。
- ・ なお、課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は、法令上規定されている最小単位(大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」でも記載してください。その場合適宜各項目の表を追加してください。
- ・ 様式は、平成28年度開設の4年制の学科の完成年度を越えて報告する場合(令和2年度までの5年間)ですが、完成年度を越えていない場合は修業年限に合わせて作成してください。(修業年限が4年以下の場合には欄を削除し、5年以上の場合には、欄を設けてください。)
- ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により、我が国の大学(大学院を含む。)、短期大学、高等専門学校、専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
- ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。

(5) - ① 調査対象学部等の名称等

| 調査対象学部等の名称(学位) | 学位又は学科の分野 | 設置時の計画 | | | | 備考 |
|--|------------------|--------|------|----------|------|----------------------------|
| | | 修業年限 | 入学定員 | 編入学定員 | 収容定員 | |
| 医学系研究科 臨床心理学専攻 (修士課程) 修士(臨床心理学) | 文学関係 医学関係 | 2年 | 10人 | 年次 0人 | 20人 | 【基礎となる学部】 医学部 臨床心理学科 |

- (注) ・ 定員を変更した場合は、「備考」に変更前の人数、変更年月及び報告年度を()書きで記入してください。
- ・ 基礎となる学部等がある場合には、「備考」に基礎となる学部等の名称を記入してください。
- ・ 学生募集停止を予定している場合は、「備考」に「令和〇年度から学生募集停止(予定)」と記載してください。
- ・ 「学位又は学科の分野」には、「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要(別記様式第2号(その2の1))」の「学位又は学科の分野」と同様に記入してください。

(5) - ② 調査対象学部等の入学者の状況

| 区分 | 対象年度 令和2年度 | | 平均入学定員 超過率 | 開設年度から報告 年度までの平均 入学定員超過 率 | 備考 |
|----------------|----------------------------------|--------|---------------|------------------------------------|----|
| | 春季入学 | その他の学期 | | | |
| A 入学定員 | 10人 (-) [-] | - | 0.60倍 | 一倍 | |
| 志願者数 | 10 (-) (-) [-] [-] | - | | | |
| 受験者数 | 9 (-) (-) [-] [-] | - | | | |
| 合格者数 | 6 (-) (-) [-] [-] | - | | | |
| B 入学者数 | 6 (-) (-) [-] [-] | - | | | |
| 入学定員超過率 B/A | 0.60 | | | | |

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ () 内には、編入学の状況について外数で記入してください。なお、編入学を複数年次で行っている場合には、(())書きとするなどし、その旨を「備考」に付記してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
- ・ 転入学生は記入しないでください。
- ・ [] 内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
- ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
- ・ 「入学定員超過率」については、各年度の春季入学とその他を合計した入学定員、入学者数で算出してください。なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。
- ・ 「平均入学定員超過率」には、開設年度から報告年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。計算の際は「入学定員超過率」と同様にしてください。なお、完成年度を越えて報告書を提出する大学等は、報告年度(令和2年度)から起算した修業年限に相当する期間の入学定員超過率の平均を記載してください。
- ・ 「開設年度から報告年度までの平均入学定員超過率」は、完成年度を越えて報告書を提出する大学等のみ記入してください。完成年度を越えていない場合は「-」を記入してください。

(5) - ③ 調査対象学部等の在学者の状況

| 学 年 | 対象年度 | | 備 考 |
|------|-------|--------|-----|
| | 令和2年度 | | |
| | 春季入学 | その他の学期 | |
| 1 年次 | 6 | - | |
| | [-] | [-] | |
| | (-) | (-) | |
| 2 年次 | / | | |
| 計 | 6 | | |
| | [-] | | |
| | (-) | | |

・ 令和2年5月1日 公表

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ [] 内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
 - ・ () 内には、留年者の状況について、内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 - ・ 編入学生や転入学生も含めて記入してください。その際、備考欄に人数の内訳を記入してください。
 - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 - ・ 「計」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数を記入してください。

(5) - ④ 調査対象学部等の退学者等の状況

| 区分 対象年度 | 在学者数(b) | 退学者数(a) | 内訳 | | | 主な退学理由 (留学生の理由は[]書き) |
|------------|---------|---------|--------|--------|----|--------------------------|
| | | | 入学した年度 | 退学者数 | | |
| | | | | うち留学生数 | | |
| 令和2年度 | 6人 | 0人 | 令和2年度 | 0人 | 0人 | |
| 合計 | | 0人 | | 0人 | 0人 | |

- (注)・数字は、報告年度の5月1日現在の数字を記入してください。
- ・各対象年度の在学者数については、対象年度の人数を記入してください。(在学者数から退学者数を減らす必要はありません。)
 - ・内訳については、退学した学生が入学した年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
 - ・在学者数、退学者数には編入学生や転入学生も含めて記入してください。
 - ・「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(〇人)」というように、その人数も含めて記入してください。
 (記入項目例)・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学
 ・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

(5) - ⑤ 調査対象学部等の年度ごとの退学者の割合

【令和2年度】

$$\frac{\text{令和2年度の退学者数(a)}}{\text{令和2年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{6} = \boxed{0} \%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

2 授業科目の概要

<香川大学大学院医学系研究科 臨床心理学専攻>

(1) -① 授業科目表

【認可時又は届出時】

| 科目区分 | 授業科目の名称 | 配当年次 | 単位数 | | | 専任教員等の配置 | | | | | 兼任・兼任 | |
|--------------------------|---|------|-----|----|----|----------|-----|----|----|----|-------|---|
| | | | 必修 | 選択 | 自由 | 教授 | 准教授 | 講師 | 助教 | 助手 | | |
| 基礎科目 | 臨床心理学研究法特論 | 1通 | 2 | | | 6 | 4 | 1 | | | | |
| | 臨床心理学特論 I | 1前 | | 2 | | 1 | | | | | | |
| | 臨床心理学特論 II | 1後 | | 2 | | 1 | | 1 | | | | |
| | 心理援助者のための職業倫理と研究・生命倫理 | 1通 | 1 | | | 1 | | | | | | 2 |
| | 心理援助職のための応用医学特論 | 1前 | 1 | | | | | | | | | 8 |
| | 心理援助職のための多職種連携 | 1前 | 1 | | | 1 | 1 | 1 | | | | 2 |
| 小計(6科目) | - | 5 | 4 | | 6 | 4 | 1 | | | | 10 | |
| 専門科目 | 臨床心理面接特論 I (心理支援に関する理論と実践) | 1前 | 2 | | | 1 | 1 | | | | | |
| | 臨床心理面接特論 II | 1後 | | 2 | | 1 | | | | | | |
| | 臨床心理査定演習 I (心理的アセスメントに関する理論と実践) | 1前 | 2 | | | 1 | 2 | | | | | |
| | 臨床心理査定演習 II | 1後 | | 2 | | 1 | | | | | | |
| | 臨床心理基礎実習 | 1通 | 2 | | | 4 | 2 | | | | | |
| | 臨床心理実習 I (心理実践実習Ⅲ(心理臨床事例検討実習Ⅱ)) | 2通 | 1 | | | 3 | 2 | 1 | | | | |
| | 臨床心理実習 II | 2通 | | 1 | | 4 | 4 | 1 | | | | |
| | 心理学研究法特論 | 1前 | | 2 | | | | | | | | 1 |
| | 教育臨床心理学特論(教育分野に関する理論と支援の展開) | 1後 | 2 | | | 2 | 1 | | | | | |
| | 発達臨床心理学特論 | 1前 | | 2 | | 1 | | | | | | |
| | 家族・集団臨床心理学特論(家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践) | 1後 | 2 | | | | 1 | | | | | |
| | 産業・労働心理学特論(産業・労働分野に関する理論と支援の展開) | 2前 | 2 | | | 2 | 1 | | | | | |
| | 犯罪心理学特論(司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開) | 2休 | 2 | | | | | | | | | 1 |
| | 福祉心理学特論(福祉分野に関する理論と支援の展開) | 2休 | 2 | | | 1 | | | | | | 1 |
| | 精神医療における心理支援(保健医療分野に関する理論と支援の展開) | 1前 | 2 | | | 1 | | | | | | |
| | 心身医学と心理支援(保健医療分野に関する理論と支援の展開) | 1後 | 2 | | | 1 | | | | | | |
| | 面接技法演習 | 1後 | | 2 | | 4 | 4 | 1 | | | | |
| | 力動的心理療法特論 | 1後 | | 2 | | 1 | | | | | | |
| | 心の健康教育に関する理論と実践 | 2後 | 2 | | | | 2 | | | | | |
| | 心理実践実習 I (ケースフォーミュレーション実習) | 1・2通 | 1 | | | 3 | 2 | 1 | | | | |
| 心理実践実習 II (心理臨床事例検討実習 I) | 1通 | 1 | | | 3 | 2 | 1 | | | | | |
| 心理実践実習A(地域医療実習) | 1後 | 2 | | | 5 | 1 | 1 | | | | | |
| 心理実践実習B(福祉・教育実習) | 1後 | 2 | | | 4 | 2 | 1 | | | | | |

【令和2年度】

| 科目区分 | 授業科目の名称 | 配当年次 | 単位数 | | | 専任教員等の配置 | | | | | 兼任・兼任 | |
|--------------------------|---|------|-----|----|----|----------|-----|----|----|----|-------|---|
| | | | 必修 | 選択 | 自由 | 教授 | 准教授 | 講師 | 助教 | 助手 | | |
| 基礎科目 | 臨床心理学研究法特論 | 1通 | 2 | | | 6 | 4 | 1 | | | | |
| | 臨床心理学特論 I | 1前 | | 2 | | 1 | | | | | | |
| | 臨床心理学特論 II | 1後 | | 2 | | 1 | | 1 | | | | |
| | 心理援助者のための職業倫理と研究・生命倫理 | 1通 | 1 | | | 1 | | | | | | 2 |
| | 心理援助職のための応用医学特論 | 1前 | 1 | | | | | | | | | 8 |
| | 心理援助職のための多職種連携 | 1前 | 1 | | | 1 | 1 | 1 | | | | 2 |
| 小計(6科目) | - | 5 | 4 | | 6 | 4 | 1 | | | | 10 | |
| 専門科目 | 臨床心理面接特論 I (心理支援に関する理論と実践) | 1前 | 2 | | | 1 | 1 | | | | | |
| | 臨床心理面接特論 II | 1後 | | 2 | | 1 | | | | | | |
| | 臨床心理査定演習 I (心理的アセスメントに関する理論と実践) | 1前 | 2 | | | 1 | 2 | | | | | |
| | 臨床心理査定演習 II | 1後 | | 2 | | 1 | | | | | | |
| | 臨床心理基礎実習 | 1通 | 2 | | | 4 | 2 | | | | | |
| | 臨床心理実習 I (心理実践実習Ⅲ(心理臨床事例検討実習Ⅱ)) | 2通 | 1 | | | 3 | 2 | 1 | | | | |
| | 臨床心理実習 II | 2通 | | 1 | | 4 | 4 | 1 | | | | |
| | 心理学研究法特論 | 1前 | | 2 | | | | | | | | 1 |
| | 教育臨床心理学特論(教育分野に関する理論と支援の展開) | 1後 | 2 | | | 2 | 1 | | | | | |
| | 発達臨床心理学特論 | 1前 | | 2 | | 1 | | | | | | |
| | 家族・集団臨床心理学特論(家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践) | 1後 | 2 | | | | 1 | | | | | |
| | 産業・労働心理学特論(産業・労働分野に関する理論と支援の展開) | 2前 | 2 | | | 2 | 1 | | | | | |
| | 犯罪心理学特論(司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開) | 2休 | 2 | | | | | | | | | 1 |
| | 福祉心理学特論(福祉分野に関する理論と支援の展開) | 2休 | 2 | | | 1 | | | | | | 1 |
| | 精神医療における心理支援(保健医療分野に関する理論と支援の展開) | 1前 | 2 | | | 1 | | | | | | |
| | 心身医学と心理支援(保健医療分野に関する理論と支援の展開) | 1後 | 2 | | | 1 | | | | | | |
| | 面接技法演習 | 1後 | | 2 | | 4 | 4 | 1 | | | | |
| | 力動的心理療法特論 | 1後 | | 2 | | 1 | | | | | | |
| | 心の健康教育に関する理論と実践 | 2後 | 2 | | | | 2 | | | | | |
| | 心理実践実習 I (ケースフォーミュレーション実習) | 1・2通 | 1 | | | 3 | 2 | 1 | | | | |
| 心理実践実習 II (心理臨床事例検討実習 I) | 1通 | 1 | | | 3 | 2 | 1 | | | | | |
| 心理実践実習A(地域医療実習) | 1後 | 2 | | | 5 | 1 | 1 | | | | | |
| 心理実践実習B(福祉・教育実習) | 1後 | 2 | | | 4 | 2 | 1 | | | | | |

| 科目区分 | 授業科目の名称 | 配当年次 | 単位数 | | | 専任教員等の配置 | | | | | 兼任・兼任 |
|---|----------------------|------|-----|----|----|----------|-----|----|----|----|-------|
| | | | 必修 | 選択 | 自由 | 教授 | 准教授 | 講師 | 助教 | 助手 | |
| | 心理実践実習C(精神・神経領域病院実習) | 2通 | 2 | | | 3 | | 1 | | | 1 |
| | 心理実践実習D(身体領域病院実習) | 2通 | 1 | | | 3 | | 1 | | | 2 |
| | 小計(25科目) | - | 32 | 13 | 0 | 6 | 4 | 1 | | | 6 |
| 研究科目 | 課題研究(修士論文) | 2通 | 4 | | | 6 | 4 | | | | |
| | 小計(1科目) | - | 4 | 0 | 0 | 6 | 4 | | | | |
| 合計(32科目) | | | - | 41 | 17 | 0 | 6 | 4 | 1 | | 14 |
| 卒業要件及び履修方法 | | | | | | | | | | | |
| 基礎科目、専門科目及び研究科目の必修科目41単位以上を修得し、学位論文を提出し、その審査及び最終試験に合格すること | | | | | | | | | | | |

| 科目区分 | 授業科目の名称 | 配当年次 | 単位数 | | | 専任教員等の配置 | | | | | 兼任・兼任 |
|---|----------------------|------|-----|----|----|----------|-----|----|----|----|-------|
| | | | 必修 | 選択 | 自由 | 教授 | 准教授 | 講師 | 助教 | 助手 | |
| | 心理実践実習C(精神・神経領域病院実習) | 2通 | 2 | | | 3 | | 1 | | | 1 |
| | 心理実践実習D(身体領域病院実習) | 2通 | 1 | | | 3 | | 1 | | | 2 |
| | 小計(25科目) | - | 32 | 13 | 0 | 6 | 4 | 1 | | | 6 |
| 研究科目 | 課題研究(修士論文) | 2通 | 4 | | | 6 | 4 | | | | |
| | 小計(1科目) | - | 4 | 0 | 0 | 6 | 4 | | | | |
| 合計(32科目) | | | - | 41 | 17 | 0 | 6 | 4 | 1 | | 14 |
| 卒業要件及び履修方法 | | | | | | | | | | | |
| 基礎科目、専門科目及び研究科目の必修科目41単位以上を修得し、学位論文を提出し、その審査及び最終試験に合格すること | | | | | | | | | | | |

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。
 - ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引き」の「教育課程等の概要」を確認してください。
 - ・ 「認可時又は届出時」には 設置認可時又は届出時の授業科目全て(兼任、兼任教員が担当する科目を含む。)を黒字で記入してください。その上で、各年度については、認可時又は届出時から変更となっている箇所は**太字の赤字**としてください。
 - ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても科目名の後ろに「(未開講)」として記入してください。
 - ・ 1ページ目には認可時又は届出時と報告年度2つの表を記入してください。
 - ・ 不要な年度(平成30年度開設であれば平成29年度)の表は適宜削除してください。
- (2つの表が1ページに表示されるようにしてください。)
- ・ 専門職大学等の場合、「実験、実習又は実技による授業科目」には「【※】」、「臨地実務実習」による授業科目には「【臨】」、「連携実務演習」による授業科目には「【連】」を授業科目の名称の右側に記入してください。

(1) ②授業科目表に関する変更内容

【令和2年度】

特になし。

- (注) ・ 2(1)一① 授業科目表に記入された各年度における変更内容(配当年次の変更、専任教員等の配置の変更、授業科目名の変更、新規科目の追加など)を箇条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
・ 変更内容には、授業科目の未開講や廃止については記入しないでください。
・ 不要な年度(平成30年度開設であれば平成29年度)の表は適宜削除してください。

(2) 授業科目数

| 設置時の計画 | | | | 変更状況 | | | | 備考 |
|----------|----------|---------|----------|-------------------|-------------------|------------------|-------------------|----|
| 必修 | 選択 | 自由 | 計(A) | 必修 | 選択 | 自由 | 計 | |
| 41 科目 | 17 科目 | 0 科目 | 58 科目 | 41 科目 [0] | 17 科目 [0] | 0 科目 [0] | 58 科目 [0] | |

- (注) ・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[]内に、設置時の計画からの増減を記入してください。(記入例: 1科目減の場合: △1)

(3) 未開講科目

| 番号 | 授業科目名 | 単位数 | 配当年次 | 一般・専門 | 必修・選択 | 未開講の理由, 代替措置の有無 |
|----|---------|-----|------|-------|-------|-----------------|
| 1 | | | | | | |
| 2 | 未開講科目なし | | | | | |
| 3 | | | | | | |

- (注) ・ 配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については記入しないでください。
 - ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。
 - ・ 専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎、展開、職業専門、総合」と修正して記入してください。

(4) 廃止科目

| 番号 | 授業科目名 | 単位数 | 配当年次 | 一般・専門 | 必修・選択 | 廃止の理由, 代替措置の有無 |
|----|--------|-----|------|-------|-------|----------------|
| 1 | | | | | | |
| 2 | 廃止科目なし | | | | | |
| 3 | | | | | | |

- (注) ・ 設置時の計画にあり、何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」として記入してください。
 - ・ 専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎、展開、職業専門、総合」と修正して記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目(3)と廃止科目(4)の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計(A)}} = \frac{0}{58} = \boxed{0}\%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。
- ・ 「未開講科目と廃止科目の計」が、「(3)未開講科目」と「(4)廃止科目」の合計数となるように留意してください。

3 施設・設備の整備状況, 経費

| 区 分 | | 内 容 | | | | 備 考 | | | |
|---------------------|-----------------|--|------------------------------------|----------------------------------|------------------|------------------------------|------------------|---------------------------|---|
| (1) 校地等 | 区 分 | 専 用 | 共 用 | 共用する他の学校等の専用 | 計 | 校舎敷地の内、10,148㎡を香川県より借用（毎年更新） | | | |
| | 校舎敷地 | 167,491㎡ | 0㎡ | 0㎡ | 167,491㎡ | | | | |
| | 運動場用地 | 80,981㎡ | 0㎡ | 0㎡ | 80,981㎡ | | | | |
| | 小 計 | 248,472㎡ | 0㎡ | 0㎡ | 248,472㎡ | | | | |
| | そ の 他 | 702,551㎡ | 0㎡ | 0㎡ | 702,551㎡ | | | | |
| | 合 計 | 951,023㎡ | 0㎡ | 0㎡ | 951,023㎡ | | | | |
| (2) 校舎 | 専 用 | 170,301㎡ | 0㎡ | 0㎡ | 170,301㎡ | | | | |
| | (170,301㎡) | (0㎡) | (0㎡) | (0㎡) | (170,301㎡) | | | | |
| (3) 教室等 | 講義室 | 演習室 | 実験実習室 | 情報処理学習施設 | 語学学習施設 | | | | |
| | 4室 | 2室 | 1室 | 2室 (補助職員 0人) | 0室 (補助職員 0人) | | | | |
| (4) 専任教員研究室 | 新設学部等の名称 | | | 室 数 | | | | | |
| | 医学系研究科臨床心理学専攻 | | | 11 室 | | | | | |
| (5) 図書・設備 | 新設学部等の名称 | 図 書 | 学術雑誌 | | 視聴覚資料 | 機 械・器 具 | 標 本 | 大学全体 ※博物館資産登録済の標本数は339 | |
| | | 〔うち外国書〕冊 | 〔うち外国書〕種 | 電子ジャーナル〔うち外国書〕 | | | | | 点 |
| | 医学系研究科臨床心理専攻 | 867,500 [267,227] (868,288 [267,227]) | 25,789 [7,449] (25,789 [7,449]) | 5,547 [4,161] (5,547 [4,161]) | 9,301 (9,301) | 0 (0) | 1,061 (1,061) | | |
| | 計 | 867,500 [267,227] (868,288 [267,227]) | 25,789 [7,449] (25,789 [7,449]) | 5,547 [4,161] (5,547 [4,161]) | 9,301 (9,301) | 0 (0) | 1,061 (1,061) | | |
| (6) 図書館 | 面 積 | | 閲覧座席数 | | 収 納 可 能 冊 数 | | | | |
| | 11,101㎡ | | 966席 | | 1,104,000冊 | | | | |
| (7) 体育館 | 面 積 | | 体育館以外のスポーツ施設の概要 | | | | 大学全体 | | |
| | 5,577㎡ | | 運 動 場 5 面 テ ニ ス コ ー ト 14 面 | | | | | | |
| (8) 経費の見積り及び維持方法の概要 | 経費の見積り | 区 分 | 開設年度 | 完成年度 | 区 分 | 開設前年度 | 開設年度 | 完成年度 | |
| | | 教員1人当り研究費等 | 千円 | 千円 | 図書購入費 | 千円 | 千円 | 千円 | |
| | | 共同研究費等 | 千円 | 千円 | 設備購入費 | 千円 | 千円 | 千円 | |
| | 学生1人当り納付金 | 第1年次 | 第2年次 | 第3年次 | 第4年次 | 第5年次 | 第6年次 | | |
| | | 千円 | 千円 | 千円 | 千円 | 千円 | 千円 | | |
| | 学生納付金以外の維持方法の概要 | | | | | | | | |

(注) ・ 設置時の計画を、申請書の様式第2号(その1の1)に準じて作成してください。(複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「(1)校地等」及び「(2)校舎」は大学全体の数字を、その他の項目はAC対象学部等の数値を記入してください。)

- ・ 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨(所要時間・距離等)を「備考」に記入してください。
- ・ 「(5)図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には令和2年5月1日現在の数値を記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「(2)」を「備考」に赤字で記入してください。
なお、昨年度の報告において赤字で見え消した部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
- ・ 校舎等建物の計画の変更(校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延)がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。
なお、昨年度の報告において赤字で見え消した部分については、黒字で記入してください。
- ・ 国立大学については「(8)経費の見積り及び維持方法の概要」は記載不要です。

4. 既設大学等の状況

| 大学の名称 | 香川大学 | | | | | | | | | | 備考 |
|---------------|------|-------|-------|-------|----------------|-----------|--------------|-------------------|--------------|----------------------|--|
| 既設学部等の名称 | 修業年限 | 入学定員 | 編入定員 | 収容定員 | 学位又は称号 | 平均入学定員超過率 | 令和2年度入学定員超過率 | 定員変更年度(AC期間の学科のみ) | 開設年度 | 所在地 | |
| | 年 | 人 | 年次人 | 人 | | 倍 | 倍 | 年度 | 年度 | 年度 | |
| 教育学部 | 4 | 160 | - | 640 | 学士(教育学)(教養学) | 1.03 | 1.03 | - | 平成15 | - | |
| 学校教育教員養成課程 | 4 | 160 | - | 640 | 学士(教育学) | 1.03 | 1.03 | - | 平成15 | 香川県高松市幸町1番1号 | |
| 人間発達環境課程 | 4 | - | - | - | 学士(教養学) | - | - | - | 平成15 | 同上 | 平成30年より学生募集停止 |
| 法学部 | 4 | 160 | 3年次10 | 660 | 学士(法学) | 1.02 | 0.97 | - | 平成15 | - | |
| (昼夜開講制) | | | | | | | | | | | |
| 法学科(昼) | 4 | 150 | 3年次10 | 620 | 学士(法学) | 1.06 | 1.03 | - | 平成15 | 香川県高松市幸町2番1号 | |
| (夜) | | 10 | - | 40 | | 0.42 | 0.10 | - | 平成15 | 同上 | |
| 経済学部 | 4 | 250 | 3年次20 | 1,040 | 学士(経済学) | 1.04 | 1.08 | - | 平成30 | - | 上段は昼間コース、下段は、夜間主コース |
| (昼夜開講制) | | | | | | | | | | | |
| 経済学科(昼) | 4 | - | - | - | 学士(経済学) | - | - | - | 平成15 | 香川県高松市幸町2番1号 | 平成30年より学生募集停止 |
| (夜) | | - | - | - | | - | - | - | 平成15 | 同上 | 平成30年より学生募集停止 |
| 経営システム学科(昼) | 4 | - | - | - | | - | - | - | 平成15 | 同上 | 平成30年より学生募集停止 |
| (夜) | | - | - | - | | - | - | - | 平成15 | 同上 | 平成30年より学生募集停止 |
| 地域社会システム学科(昼) | 4 | - | - | - | | - | - | - | 平成15 | 同上 | 平成30年より学生募集停止 |
| (夜) | | - | - | - | | - | - | - | 平成15 | 同上 | 平成30年より学生募集停止 |
| 経済学科(昼) | 4 | 240 | 3年次20 | 1,000 | 学士(経済学) | 1.05 | 1.08 | - | 平成30 | 香川県高松市幸町2番1号 | 平成29年度事前伺い平成30年4月設置 |
| (夜) | | 10 | - | 40 | | 0.83 | 1.00 | - | 平成30 | 同上 | 平成29年度事前伺い平成30年4月設置 |
| 医学部 | 6 | 109 | 2年次5 | 623 | 学士(医学) | 1.00 | 1.00 | 令和2 | 平成15 | - | |
| | | | | | | | | | | | |
| | 4 | 80 | 3年次10 | 340 | 学士(看護学)(臨床心理学) | 1.04 | 1.02 | - | 平成15 平成30 | - | |
| 医学科 | 6 | 109 | 2年次5 | 623 | 学士(医学) | 1.00 | 1.00 | 令和2 | 平成15 | 香川県木田郡三木町大字池戸1750番地1 | 令和2年度収容定員増による学年進行令和2年度入学者に適用される学則上の収容定員を記載 |
| 看護学科 | 4 | 60 | 3年次10 | 260 | 学士(看護学) | 1.05 | 1.01 | - | 平成15 | 同上 | |
| 臨床心理学 | 4 | 20 | - | 80 | 学士(臨床心理学) | 1.01 | 1.05 | - | 平成30 | 同上 | 平成29年度事前伺い平成30年4月設置 |
| 創造工学部 | 4 | 330 | 3年次20 | 1,360 | 学士(工学) | 1.02 | 1.00 | - | 平成30 | - | |
| 創造工学科 | 4 | 330 | 3年次20 | 1,360 | 学士(工学) | 1.02 | 1.00 | - | 平成30 | 香川県高松市林町2217番地20 | 平成29年度事前伺い平成30年4月設置 |
| 工学部 | 4 | - | - | - | 学士(工学) | - | - | - | 平成15 | - | |
| 安全システム建設工学科 | 4 | - | - | - | 学士(工学) | - | - | - | 平成15 | 香川県高松市林町2217番地20 | 平成30年より学生募集停止 |
| 電子・情報工学科 | 4 | - | - | - | | - | - | - | 平成15 | 同上 | 平成30年より学生募集停止 |
| 知能機械システム工学科 | 4 | - | - | - | | - | - | - | 平成15 | 同上 | 平成30年より学生募集停止 |
| 材料創造工学科 | 4 | - | - | - | | - | - | - | 平成15 | 同上 | 平成30年より学生募集停止 |
| 農学部 | 4 | 150 | - | 600 | 学士(農学) | 1.03 | 1.00 | - | 平成18 | - | |
| 応用生物科学科 | 4 | 150 | - | 600 | 学士(農学) | 1.03 | 1.00 | - | 平成18 | 香川県木田郡三木町大字池戸2393番地 | |
| 大学全体(学部) | 4 | 1,130 | 3年次60 | 4,640 | - | 1.03 | 1.02 | - | - | - | |
| | 6 | 109 | 2年次5 | 623 | - | 1.00 | 1.00 | - | - | - | |

| 大学の名称 | 香川大学 | | | | | | | | | | 備考 |
|--------------------|------|------|-------|------|----------------|-----------|--------------|-------------------|-------------|----------------------|-------------------------|
| 既設学部等の名称 | 修業年限 | 入学定員 | 編入学定員 | 収容定員 | 学位又は称号 | 平均入学定員超過率 | 令和2年度入学定員超過率 | 定員変更年度(AC期間の学科のみ) | 開設年度 | 所在地 | |
| 教育学研究科 | | | | | | | | | | | |
| 修士課程 | 2 | - | - | - | 修士(教育学) | - | - | - | 平成15 | - | |
| 学校教育専攻 | 2 | - | - | - | 修士(教育学) | - | - | - | 平成15 | 香川県高松市幸町1番1号 | 令和2年より学生募集停止 |
| 教科教育専攻 | 2 | - | - | - | | - | - | - | 平成15 | 同上 | 令和2年より学生募集停止 |
| 学校臨床心理専攻 | 2 | - | - | - | | - | - | - | 平成15 | 同上 | 令和2年より学生募集停止 |
| 専門職学位課程 | 2 | 20 | - | 40 | 教職修士(専門職) | 0.65 | 0.65 | - | 平成28 | - | |
| 高度教職実践専攻 | 2 | - | - | - | 教職修士(専門職) | - | - | - | 平成28 | 同上 | 令和2年より学生募集停止 |
| 高度教職実践専攻 | 2 | 20 | - | 40 | 教職修士(専門職) | 0.65 | 0.65 | - | 令和2 | 同上 | 平成31年度事前伺い 令和2年4月設置 |
| 法学研究科 | | | | | | | | | | | |
| 修士課程 | 2 | 8 | - | 16 | 修士(法学) | 0.56 | 0.37 | - | 平成15 | - | |
| 法律学専攻 | 2 | 8 | - | 16 | 修士(法学) | 0.56 | 0.37 | - | 平成15 | 香川県高松市幸町2番1号 | |
| 経済学研究科 | | | | | | | | | | | |
| 修士課程 | 2 | 10 | - | 20 | 修士(経済学) | 0.55 | 0.60 | - | 平成15 | - | |
| 経済学専攻 | 2 | 10 | - | 20 | 修士(経済学) | 0.55 | 0.60 | - | 平成15 | 香川県高松市幸町2番1号 | |
| 医学系研究科 | | | | | | | | | | | |
| 修士課程 | 2 | 26 | - | 52 | 修士(看護学(臨床心理学)) | 0.69 | 0.57 | - | 平成15 令和2 | - | |
| 看護学専攻 | 2 | 16 | - | 32 | 修士(看護学) | 0.68 | 0.56 | - | 平成15 | 香川県木田郡三木町大字池戸1750番地1 | |
| 臨床心理学専攻 | 2 | 10 | - | 20 | 修士(臨床心理学) | 0.60 | 0.60 | - | 令和2 | 同上 | 平成31年度意見伺い 令和2年4月設置 |
| 博士課程 | 4 | 30 | - | 120 | 博士(医学) | 1.04 | 0.90 | - | 平成28 | - | |
| 機能構築医学専攻 | 4 | - | - | - | 博士(医学) | - | - | - | 平成15 | 同上 | 平成28年より学生募集停止 |
| 分子情報制御医学専攻 | 4 | - | - | - | | - | - | - | 平成15 | 同上 | 平成28年より学生募集停止 |
| 社会環境病態医学専攻 | 4 | - | - | - | | - | - | - | 平成15 | 同上 | 平成28年より学生募集停止 |
| 医学専攻 | 4 | 30 | - | 120 | | 1.04 | 0.90 | - | 平成28 | 同上 | 平成27年度事前伺い 平成28年4月設置 |
| 工学研究科 | | | | | | | | | | | |
| 博士前期課程 | 2 | 78 | - | 156 | 修士(工学) | 1.18 | 1.16 | - | 平成15 | - | |
| 安全システム建設工学専攻 | 2 | 18 | - | 36 | 修士(工学) | 0.38 | 0.27 | - | 平成15 | 香川県高松市林町2217番地20 | |
| 信頼性情報システム工学専攻 | 2 | 24 | - | 48 | | 1.29 | 1.50 | - | 平成15 | 同上 | |
| 知能機械システム工学専攻 | 2 | 18 | - | 36 | | 1.66 | 1.44 | - | 平成15 | 同上 | |
| 材料創造工学専攻 | 2 | 18 | - | 36 | | 1.38 | 1.33 | - | 平成15 | 同上 | |
| 博士後期課程 | 3 | 22 | - | 66 | 博士(工学) | 0.43 | 0.31 | - | 平成16 | - | |
| 安全システム建設工学専攻 | 3 | 5 | - | 15 | 博士(工学) | 0.46 | 0.40 | - | 平成16 | 同上 | |
| 信頼性情報システム工学専攻 | 3 | 7 | - | 21 | | 0.14 | 0.28 | - | 平成16 | 同上 | |
| 知能機械システム工学専攻 | 3 | 5 | - | 15 | | 0.86 | 0.20 | - | 平成16 | 同上 | |
| 材料創造工学専攻 | 3 | 5 | - | 15 | | 0.40 | 0.40 | - | 平成16 | 同上 | |
| 農学研究科 | | | | | | | | | | | |
| 修士課程 | 2 | 60 | - | 120 | 修士(農学) | 0.75 | 0.63 | - | 平成30 | - | |
| 応用生物・希少糖科学専攻 | 2 | 60 | - | 120 | 修士(農学) | 0.75 | 0.63 | - | 平成30 | 同上 | 平成29年度事前伺い 平成30年4月設置 |
| 地域マネジメント研究科 | | | | | | | | | | | |
| 専門職学位課程 | | | | | | | | | | | |
| 地域マネジメント専攻 | 2 | 30 | - | 60 | 経営修士(専門職) | 1.11 | 1.13 | - | 平成16 | - | |
| | 2 | 30 | - | 60 | 経営修士(専門職) | 1.11 | 1.13 | - | 平成16 | 香川県高松市幸町2番1号 | |

| 大学の名称 | 香川大学 | | | | | | | | | | 備考 |
|-----------|----------|----------|-----------|----------|------------|-------------------|----------------------|-------------------------------|----------|-------|----|
| 既設学部等の名称 | 修業 年限 | 入学 定員 | 編入学 定員 | 収容 定員 | 学位又 は称号 | 平均入学 定員 超過率 | 令和2年度 入学定員 超過率 | 定員変更 年度 (AC期間の 学科のみ) | 開設 年度 | 所 在 地 | |
| 大学全体（大学院） | 2 | 232 | - | 464 | - | 0.93 | 0.86 | - | - | - | |
| | 3 | 22 | - | 66 | - | 0.43 | 0.31 | - | - | - | |
| | 4 | 30 | - | 120 | - | 1.04 | 0.90 | - | - | - | |

- (注) ・本調査の対象となっている大学等の設置者が既に設置している全ての大学（大学院含む）、短期大学及び高等専門学校についてそれぞれの学校ごとに、報告年度の5月1日現在の状況を記入してください。
（専攻科及び別科を除く）。
- ・学部の学科または研究科の専攻等、「入学定員を定めている組織」ごとに全ての組織を記入してください。
※「入学定員を定めている組織」ごとには、課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めず、履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。
 - ・本年度AC対象となる学部等については、必ず下線を引いてください。
 - ・「平均入学定員超過率」には、報告年度（令和2年度）から起算した修業年限に相当する期間の入学定員超過率の平均を記載してください。
 - ・「備考」の欄については、学年進行中の入学定員の増減や学生募集停止など、収容定員に影響のある情報を記入してください。

5 教員組織の状況

<香川大学大学院医学系研究科 臨床心理学専攻>

(1) -① 担当教員表

【認可時又は届出時】

【令和2年度】

| 専任・兼任・兼任の別 | 職名 | 氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等 |
|------------|----|--|
| | | 担当授業科目名 |
| 専 | 教授 | 林 智一 ＜令和2年4月＞ 博士(心理学) |
| | | 臨床心理学研究法特論 心理援助者のための職業倫理と研究・生命倫理※ 臨床心理基礎実習 臨床心理実習Ⅱ 発達臨床心理学特論 面接技法演習 力動的心理療法特論 心理実践実習A(地域医療実習) 心理実践実習B(福祉・教育実習) 課題研究(修士論文) |
| 専 | 教授 | 橋本 忠行 ＜令和2年4月＞ 修士(教育心理学) |
| | | 臨床心理学研究法特論 臨床心理査定演習Ⅰ(心理的アセスメントに関する理論と実践)※ 臨床心理査定演習Ⅱ 臨床心理基礎実習 臨床心理実習Ⅰ(心理実践実習Ⅲ(心理臨床事例検討実習Ⅱ)) 臨床心理実習Ⅱ 面接技法演習 心理実践実習Ⅰ(ケースフォーミュレーション実習) 心理実践実習Ⅱ(心理臨床事例検討実習Ⅰ) 心理実践実習A(地域医療実習) 心理実践実習B(福祉・教育実習) 課題研究(修士論文) |
| 専 | 教授 | 山田 俊介 ＜令和2年4月＞ 文学修士 |
| | | 臨床心理学研究法特論 臨床心理学特論Ⅰ 臨床心理面接特論Ⅱ 臨床心理基礎実習 臨床心理実習Ⅰ(心理実践実習Ⅲ(心理臨床事例検討実習Ⅱ)) 臨床心理実習Ⅱ 面接技法演習 心理実践実習Ⅰ(ケースフォーミュレーション実習) 心理実践実習Ⅱ(心理臨床事例検討実習Ⅰ) 心理実践実習B(福祉・教育実習) 課題研究(修士論文) |

| 専任・兼任・兼任の別 | 職名 | 氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等 |
|------------|----|--|
| | | 担当授業科目名 |
| 専 | 教授 | 林 智一 ＜令和2年4月＞ 博士(心理学) |
| | | 臨床心理学研究法特論 心理援助者のための職業倫理と研究・生命倫理※ 臨床心理基礎実習 臨床心理実習Ⅱ 発達臨床心理学特論 面接技法演習 力動的心理療法特論 心理実践実習A(地域医療実習) 心理実践実習B(福祉・教育実習) 課題研究(修士論文) |
| 専 | 教授 | 橋本 忠行 ＜令和2年4月＞ 修士(教育心理学) |
| | | 臨床心理学研究法特論 臨床心理査定演習Ⅰ(心理的アセスメントに関する理論と実践)※ 臨床心理査定演習Ⅱ 臨床心理基礎実習 臨床心理実習Ⅰ(心理実践実習Ⅲ(心理臨床事例検討実習Ⅱ)) 臨床心理実習Ⅱ 面接技法演習 心理実践実習Ⅰ(ケースフォーミュレーション実習) 心理実践実習Ⅱ(心理臨床事例検討実習Ⅰ) 心理実践実習A(地域医療実習) 心理実践実習B(福祉・教育実習) 課題研究(修士論文) |
| 専 | 教授 | 山田 俊介 ＜令和2年4月＞ 文学修士 |
| | | 臨床心理学研究法特論 臨床心理学特論Ⅰ 臨床心理面接特論Ⅱ 臨床心理基礎実習 臨床心理実習Ⅰ(心理実践実習Ⅲ(心理臨床事例検討実習Ⅱ)) 臨床心理実習Ⅱ 面接技法演習 心理実践実習Ⅰ(ケースフォーミュレーション実習) 心理実践実習Ⅱ(心理臨床事例検討実習Ⅰ) 心理実践実習B(福祉・教育実習) 課題研究(修士論文) |

| 専任・兼任・兼任の別 | 職名 | 氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等 |
|------------|-----|---|
| | | 担当授業科目名 |
| 専 | 教授 | 竹森 元彦 ＜令和2年4月＞ 教育学修士 |
| | | 臨床心理学研究法特論 臨床心理学特論Ⅱ※ 心理援助職のための多職種連携※ 臨床心理面接特論Ⅰ(心理支援に関する理論と実践)※ 臨床心理基礎実習 臨床心理実習Ⅰ(心理実践実習Ⅲ(心理臨床事例検討実習Ⅱ)) 臨床心理実習Ⅱ 福祉心理学特論(福祉分野に関する理論と支援の展開)※ 面接技法演習 心理実践実習Ⅰ(ケースフォーミュレーション実習) 心理実践実習Ⅱ(心理臨床事例検討実習Ⅰ) 心理実践実習A(地域医療実習) 心理実践実習B(福祉・教育実習) 心理実践実習C(精神・神経領域病院実習) 心理実践実習D(身体領域病院実習) 課題研究(修士論文) |
| | | 神原 憲治 ＜令和2年4月＞ 博士(医学) |
| | | 臨床心理学研究法特論 教育臨床心理学特論(教育分野に関する理論と支援の展開)※ 産業・労働心理学特論(産業・労働分野に関する理論と支援の展開)※ 心身医学と心理支援(保健医療分野に関する理論と支援の展開) 心理実践実習A(地域医療実習) 心理実践実習C(精神・神経領域病院実習) 心理実践実習D(身体領域病院実習) 課題研究(修士論文) |
| 専 | 教授 | 黒滝 直弘 ＜令和2年4月＞ 博士(医学) |
| | | 臨床心理学研究法特論 教育臨床心理学特論(教育分野に関する理論と支援の展開)※ 産業・労働心理学特論(産業・労働分野に関する理論と支援の展開)※ 精神医療における心理支援(保健医療分野に関する理論と支援の展開) 心理実践実習A(地域医療実習) 心理実践実習C(精神・神経領域病院実習) 心理実践実習D(身体領域病院実習) 課題研究(修士論文) |
| 専 | 准教授 | 川人(杉野本) 潤子 ＜令和2年4月＞ 博士(心理学) |
| | | 臨床心理学研究法特論 臨床心理実習Ⅱ 面接技法演習 心の健康教育に関する理論と実践※ 課題研究(修士論文) |

| 専任・兼任・兼任の別 | 職名 | 氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等 |
|------------|-----|---|
| | | 担当授業科目名 |
| 専 | 教授 | 竹森 元彦 ＜令和2年4月＞ 教育学修士 |
| | | 臨床心理学研究法特論 臨床心理学特論Ⅱ※ 心理援助職のための多職種連携※ 臨床心理面接特論Ⅰ(心理支援に関する理論と実践)※ 臨床心理基礎実習 臨床心理実習Ⅰ(心理実践実習Ⅲ(心理臨床事例検討実習Ⅱ)) 臨床心理実習Ⅱ 福祉心理学特論(福祉分野に関する理論と支援の展開)※ 面接技法演習 心理実践実習Ⅰ(ケースフォーミュレーション実習) 心理実践実習Ⅱ(心理臨床事例検討実習Ⅰ) 心理実践実習A(地域医療実習) 心理実践実習B(福祉・教育実習) 心理実践実習C(精神・神経領域病院実習) 心理実践実習D(身体領域病院実習) 課題研究(修士論文) |
| | | 神原 憲治 ＜令和2年4月＞ 博士(医学) |
| | | 臨床心理学研究法特論 教育臨床心理学特論(教育分野に関する理論と支援の展開)※ 産業・労働心理学特論(産業・労働分野に関する理論と支援の展開)※ 心身医学と心理支援(保健医療分野に関する理論と支援の展開) 心理実践実習A(地域医療実習) 心理実践実習C(精神・神経領域病院実習) 心理実践実習D(身体領域病院実習) 課題研究(修士論文) |
| 専 | 教授 | 黒滝 直弘 ＜令和2年4月＞ 博士(医学) |
| | | 臨床心理学研究法特論 教育臨床心理学特論(教育分野に関する理論と支援の展開)※ 産業・労働心理学特論(産業・労働分野に関する理論と支援の展開)※ 精神医療における心理支援(保健医療分野に関する理論と支援の展開) 心理実践実習A(地域医療実習) 心理実践実習C(精神・神経領域病院実習) 心理実践実習D(身体領域病院実習) 課題研究(修士論文) |
| 専 | 准教授 | 川人(杉野本) 潤子 ＜令和2年4月＞ 博士(心理学) |
| | | 臨床心理学研究法特論 臨床心理実習Ⅱ 面接技法演習 心の健康教育に関する理論と実践※ 課題研究(修士論文) |

| 専任・兼任・兼任の別 | 職名 | 氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等 |
|------------|-----|---|
| | | 担当授業科目名 |
| 専 | 准教授 | 野口 修司 <令和2年4月> 博士(教育学) |
| | | 臨床心理学研究法特論 臨床心理実習Ⅱ 心理援助職のための多職種連携※ 家族・集団臨床心理学特論(家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践) 産業・労働心理学特論(産業・労働分野に関する理論と支援の展開)※ 面接技法演習 心理実践実習B(福祉・教育実習) 課題研究(修士論文) |
| 専 | 准教授 | 坂中 尚哉 <令和2年4月> 博士(学術) |
| | | 臨床心理学研究法特論 臨床心理査定演習Ⅰ(心理的アセスメントに関する理論と実践)※ 臨床心理基礎実習 臨床心理実習Ⅰ(心理実践実習Ⅲ(心理臨床事例検討実習Ⅱ)) 臨床心理実習Ⅱ 教育臨床心理学特論(教育分野に関する理論と支援の展開)※ 面接技法演習 心理実践実習Ⅰ(ケースフォーミュレーション実習) 心理実践実習Ⅱ(心理臨床事例検討実習Ⅰ) 心理実践実習A(地域医療実習) 課題研究(修士論文) |
| 専 | 准教授 | 谷淵 真也 <令和2年4月> 博士(心理学) |
| | | 臨床心理学研究法特論 臨床心理面接特論Ⅰ(心理支援に関する理論と実践)※ 臨床心理査定演習Ⅰ(心理的アセスメントに関する理論と実践)※ 臨床心理基礎実習 臨床心理実習Ⅰ(心理実践実習Ⅲ(心理臨床事例検討実習Ⅱ)) 臨床心理実習Ⅱ 面接技法演習 心の健康教育に関する理論と実践※ 心理実践実習Ⅰ(ケースフォーミュレーション実習) 心理実践実習Ⅱ(心理臨床事例検討実習Ⅰ) 心理実践実習B(福祉・教育実習) 課題研究(修士論文) |

| 専任・兼任・兼任の別 | 職名 | 氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等 |
|------------|-----|---|
| | | 担当授業科目名 |
| 専 | 准教授 | 野口 修司 <令和2年4月> 博士(教育学) |
| | | 臨床心理学研究法特論 臨床心理実習Ⅱ 心理援助職のための多職種連携※ 家族・集団臨床心理学特論(家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践) 産業・労働心理学特論(産業・労働分野に関する理論と支援の展開)※ 面接技法演習 心理実践実習B(福祉・教育実習) 課題研究(修士論文) |
| 専 | 准教授 | 坂中 尚哉 <令和2年4月> 博士(学術) |
| | | 臨床心理学研究法特論 臨床心理査定演習Ⅰ(心理的アセスメントに関する理論と実践)※ 臨床心理基礎実習 臨床心理実習Ⅰ(心理実践実習Ⅲ(心理臨床事例検討実習Ⅱ)) 臨床心理実習Ⅱ 教育臨床心理学特論(教育分野に関する理論と支援の展開)※ 面接技法演習 心理実践実習Ⅰ(ケースフォーミュレーション実習) 心理実践実習Ⅱ(心理臨床事例検討実習Ⅰ) 心理実践実習A(地域医療実習) 課題研究(修士論文) |
| 専 | 准教授 | 谷淵 真也 <令和2年4月> 博士(心理学) |
| | | 臨床心理学研究法特論 臨床心理面接特論Ⅰ(心理支援に関する理論と実践)※ 臨床心理査定演習Ⅰ(心理的アセスメントに関する理論と実践)※ 臨床心理基礎実習 臨床心理実習Ⅰ(心理実践実習Ⅲ(心理臨床事例検討実習Ⅱ)) 臨床心理実習Ⅱ 面接技法演習 心の健康教育に関する理論と実践※ 心理実践実習Ⅰ(ケースフォーミュレーション実習) 心理実践実習Ⅱ(心理臨床事例検討実習Ⅰ) 心理実践実習B(福祉・教育実習) 課題研究(修士論文) |

| 専任・兼担・兼任の別 | 職名 | 氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等 |
|------------|----|---|
| | | 担当授業科目名 |
| 専 | 講師 | 長谷(片山)綾子 ＜令和2年4月＞ 教育学修士 臨床心理学研究法特論 臨床心理学特論Ⅱ※ 心理援助職のための多職種連携※ 臨床心理実習Ⅰ(心理実践実習Ⅲ(心理臨床事例検討実習Ⅱ)) 臨床心理実習Ⅱ 面接技法演習 心理実践実習Ⅰ(ケースフォーミュレーション実習) 心理実践実習Ⅱ(心理臨床事例検討実習Ⅰ) 心理実践実習A(地域医療実習) 心理実践実習B(福祉・教育実習) 心理実践実習C(精神・神経領域病院実習) 心理実践実習D(身体領域病院実習) |
| | | 西山 成 ＜令和2年4月＞ 医学博士 心理援助者のための職業倫理と研究・生命倫理※ |
| | | 松田 陽子 ＜令和2年4月＞ 博士(医学) 心理援助職のための応用医学特論※ |
| | | 南野 哲男 ＜令和2年4月＞ 博士(医学) 心理援助者のための職業倫理と研究・生命倫理※ |
| | | 中村 祐 ＜令和2年4月＞ 博士(医学) 心理実践実習C(精神・神経領域病院実習) |
| | | 日下 隆 ＜令和2年4月＞ 博士(医学) 心理援助職のための応用医学特論※ 心理実践実習D(身体領域病院実習) |
| | | 辻 晃仁 ＜令和2年4月＞ 博士(医学) 心理援助職のための応用医学特論※ 心理実践実習D(身体領域病院実習) |
| | | |

| 専任・兼担・兼任の別 | 職名 | 氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等 |
|------------|----|---|
| | | 担当授業科目名 |
| 専 | 講師 | 長谷(片山)綾子 ＜令和2年4月＞ 教育学修士 臨床心理学研究法特論 臨床心理学特論Ⅱ※ 心理援助職のための多職種連携※ 臨床心理実習Ⅰ(心理実践実習Ⅲ(心理臨床事例検討実習Ⅱ)) 臨床心理実習Ⅱ 面接技法演習 心理実践実習Ⅰ(ケースフォーミュレーション実習) 心理実践実習Ⅱ(心理臨床事例検討実習Ⅰ) 心理実践実習A(地域医療実習) 心理実践実習B(福祉・教育実習) 心理実践実習C(精神・神経領域病院実習) 心理実践実習D(身体領域病院実習) |
| | | 西山 成 ＜令和2年4月＞ 医学博士 心理援助者のための職業倫理と研究・生命倫理※ |
| | | 松田 陽子 ＜令和2年4月＞ 博士(医学) 心理援助職のための応用医学特論※ |
| | | 南野 哲男 ＜令和2年4月＞ 博士(医学) 心理援助者のための職業倫理と研究・生命倫理※ |
| | | 中村 祐 ＜令和2年4月＞ 博士(医学) 心理実践実習C(精神・神経領域病院実習) |
| | | 日下 隆 ＜令和2年4月＞ 博士(医学) 心理援助職のための応用医学特論※ 心理実践実習D(身体領域病院実習) |
| | | 辻 晃仁 ＜令和2年4月＞ 博士(医学) 心理援助職のための応用医学特論※ 心理実践実習D(身体領域病院実習) |
| | | |

| 専任・兼任・兼任の別 | 職名 | 氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等 |
|------------|-------|------------------------------------|
| | | 担当授業科目名 |
| 兼任 | 教授 | 山本 融 ＜令和2年4月＞ 博士(薬学) |
| | | 心理援助職のための応用医学特論※ |
| 兼任 | 教授 | 清水 裕子 ＜令和2年4月＞ 博士(老年学) |
| | | 心理援助職のための応用医学特論※ 心理援助職のための多職種連携 |
| 兼任 | 准教授 | 中條 浩介 ＜令和2年4月＞ 博士(医学) |
| | | 心理援助職のための応用医学特論※ |
| 兼任 | 准教授 | 宮武 伸行 ＜令和2年4月＞ 博士(医学) |
| | | 心理援助職のための応用医学特論※ |
| 兼任 | 准教授 | 坂東 修二 ＜令和2年4月＞ 医学博士 |
| | | 心理援助職のための応用医学特論※ 心理援助職のための多職種連携 |
| 兼任 | 講師 | 高田 純 ＜令和2年4月＞ 心理学博士 |
| | | 心理学研究法特論 |
| 兼任 | 非常勤講師 | 黒澤 良輔 ＜令和2年4月＞ 学士(教育学) |
| | | 犯罪心理学特論(司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開) |
| 兼任 | 非常勤講師 | 四方 克尚 ＜令和2年4月＞ 修士(社会学) |
| | | 福祉心理学特論(福祉分野に関する理論と支援の展開)※ |

| 専任・兼任・兼任の別 | 職名 | 氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等 |
|------------|-------|------------------------------------|
| | | 担当授業科目名 |
| 兼任 | 教授 | 山本 融 ＜令和2年4月＞ 博士(薬学) |
| | | 心理援助職のための応用医学特論※ |
| 兼任 | 教授 | 清水 裕子 ＜令和2年4月＞ 博士(老年学) |
| | | 心理援助職のための応用医学特論※ 心理援助職のための多職種連携 |
| 兼任 | 准教授 | 中條 浩介 ＜令和2年4月＞ 博士(医学) |
| | | 心理援助職のための応用医学特論※ |
| 兼任 | 准教授 | 宮武 伸行 ＜令和2年4月＞ 博士(医学) |
| | | 心理援助職のための応用医学特論※ |
| 兼任 | 准教授 | 坂東 修二 ＜令和2年4月＞ 医学博士 |
| | | 心理援助職のための応用医学特論※ 心理援助職のための多職種連携 |
| 兼任 | 講師 | 高田 純 ＜令和2年4月＞ 心理学博士 |
| | | 心理学研究法特論 |
| 兼任 | 非常勤講師 | 黒澤 良輔 ＜令和2年4月＞ 学士(教育学) |
| | | 犯罪心理学特論(司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開) |
| 兼任 | 非常勤講師 | 四方 克尚 ＜令和2年4月＞ 修士(社会学) |
| | | 福祉心理学特論(福祉分野に関する理論と支援の展開)※ |

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第3号(その2の1)に準じて作成してください。
 - ・ 「認可時又は届出時」には 設置認可時又は届出時の教員全て(兼任、兼任教員を含む。)を黒字で記入してください。その上で、**認可時又は届出時から変更となっている箇所は赤字としてください。**
 - ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引き」の「教員名簿」を確認してください。
 - ・ 年齢は、**それぞれの年度の5月1日時点の満年齢**を記入してください。
 - ・ 専任(専門職大学等は専、実専、実(研)、実(実)、実(実))、兼任、兼任の順に記入してください。
 - ・ 不要な年度(平成30年度開設であれば平成29年度)の表は適宜削除し、詰めてください。

(1) ②担当教員表に関する変更内容

【令和2年度】

誤謬により、「心理援助者のための職業倫理と研究・生命倫理」を「心理援助者のための職業倫理と研究・生命倫理※」に訂正

- (注)
- ・ 変更内容を簡条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
 - ・ **認可で設置された学部等の専任教員を変更する場合は**、当該専任教員が授業を開始する前に必ず「専任教員採用等設置計画変更書」を提出し、大学設置・学校法人審議会による教員資格審査（AC教員審査）を受けてください。**AC教員審査を受けずに専任教員として授業等を担当することは出来ません。**
 - ・ 「専任教員採用等変更書（AC）」を提出し「可」の教員判定を受けている場合は「〇年〇月教員審査済」と記入してください。
- なお、設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は、「教員審査省略」と記入してください。
- ・ 不要な年度（平成30年度開設であれば平成29年度）の表は適宜削除してください。

(2) 専任教員数等

(2) - ① 設置基準上の必要専任教員数

| | | |
|----------------------------------|---------------------------------|------------------------------------|
| 完成年度時における 設置基準上の必要研究 指導教員数 | うち、完成年度時に おける設置基準上の 必要教授数 | 完成年度時における 設置基準上の必要研究 指導補助教員数 |
| 4 | 3 | 5 |
| 名 | 名 | 名 |

(注) ・ 大学院に専攻ごとに置くものとする教員の数について定める件（平成十一年九月十四日文部省告示第七十五号）により算出される教員数を記入してください。

(2) - ② 専任教員等数【大学院】

| 設置時の計画 | | | | | | 現在（報告時）の状況 | | | | | |
|------------------|---------------|----------------|-----|----------|------------|------------------|---------------|----------------|-----|----------|------------|
| 教授 | 准教授 | 講師 | 助教 | 計 (A) | 助手 (A') | 教授 | 准教授 | 講師 | 助教 | 計 (B) | 助手 (B') |
| 6 | 4 | 1 | 0 | 11 | 0 | 6 | 4 | 1 | 0 | 11 | 0 |
| (6) | (4) | (1) | (0) | (11) | (0) | | | | | | |
| 研究指導教員 数 | 研究指導補助 教員数 | 講義のみ担当 の教員数 | / | | | 研究指導教員 数 | 研究指導補助 教員数 | 講義のみ担当 の教員数 | / | | |
| 10 | 1 | 0 | | | | 10 | 1 | 0 | | | |
| (10) | (1) | (0) | | | | | | | | | |
| 現在（報告時）の完成年度時の状況 | | | | | | 現在（報告時）の完成年度時の計画 | | | | | |
| 教授 | 准教授 | 講師 | 助教 | 計 (C) | 助手 (C') | 教授 | 准教授 | 講師 | 助教 | 計 (D) | 助手 (D') |
| 6 | 4 | 1 | 0 | 11 | 0 | 6 | 4 | 1 | 0 | 11 | 0 |
| [0] | [0] | [0] | [0] | [0] | [0] | [0] | [0] | [0] | [0] | [0] | [0] |
| 研究指導教員 数 | 研究指導補助 教員数 | 講義のみ担当 の教員数 | / | | | 研究指導教員 数 | 研究指導補助 教員数 | 講義のみ担当 の教員数 | / | | |
| 10 | 1 | 0 | | | | 10 | 1 | 0 | | | |
| [0] | [0] | [0] | | | | [0] | [0] | [0] | | | |

(注) ・ 「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、() 内に開設時の状況を記入してください。
 ・ 「現在（報告時）の状況」には、報告年度の5月1日の教員数（実人数）を記入してください。
 ・ 「現在（報告時）の完成年度時の状況」には、「現在（報告時）の状況」に記入した数字に、教員審査を受審済みであり、完成年度までに就任する教員数を加えた数を記入するとともに、[] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：△1）
 ・ 「現在（報告時）の完成年度時の計画」には、予定されている完成年度時の人数を記入するとともに、[] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：△1）
 ・ 専門職大学院の場合は、「研究指導教員」を「研究者教員」と、「研究指導補助教員」を「実務家教員」と修正して記入してください。

(2) - ③ 年齢構成

| 年齢構成 | | |
|---------------------|---|--|
| 定年規定の定める 定年年齢（歳） | 報告時（上記 (B)）の教員の うち、定年を延長 して採用している 教員数 | 完成年度時（上記 (C)）の教員う ち、定年を延長し て採用する教員数 |
| 65 | 0 | 0 |
| 歳 | 名 | 名 |

(注) ・ 「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢（特例等による定年年齢ではありません）、及び、報告年度の5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている教員数及び完成年度時に定年を超えて専任教員として採用する教員数を記入してください。
 ・ なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二段書きで記入し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。

(2) - ④ 設置時の計画に対する教員充足率

$$\frac{\text{現在（報告時）の完成年度時の状況(C)}}{\text{設置時の計画(A)}} = \frac{11}{11} = \boxed{100} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) - ⑤ 現在（報告時）の状況における定年を延長している教員構成率

$$\frac{\text{報告時の教員のうち、定年を延長して採用している教員数}}{\text{現在（報告時）の状況(B)}} = \frac{0}{11} = \boxed{0} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) - ⑥ 設置時の計画に対する助手充足率

$$\frac{\text{現在（報告時）の完成年度時の状況(C)}}{\text{設置時の計画(A')}} = \frac{0}{0} = \boxed{0} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) 専任教員辞任等の理由

(3) - ① 専任教員の就任辞退（未就任）の理由及び後任補充状況

| 番号 | 職位 | 専任教員氏名 | 時期 | 必修・選択・自由の別 | 担当予定科目 | 後任補充状況 | 就任辞退（未就任）の理由 | | | |
|------------|----|--------------------------|----|------------|---------------|--------|--------------|----|-----------|----|
| | | 該当なし | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | |
| 合計 (D) | | | | | 後任補充状況の集計 (E) | | | | | |
| 就任を辞退した教員数 | | 担当科目数の合計 (a) + (b) + (c) | | | ①の合計数 (a) | | ②の合計数 (b) | | ③の合計数 (c) | |
| 0 | 人 | 必修 | 0 | 科目 | 必修 | 0 | 科目 | 必修 | 0 | 科目 |
| | | 選択 | 0 | 科目 | 選択 | 0 | 科目 | 選択 | 0 | 科目 |
| | | 自由 | 0 | 科目 | 自由 | 0 | 科目 | 自由 | 0 | 科目 |
| | | 計 | 0 | 科目 | 計 | 0 | 科目 | 計 | 0 | 科目 |

- (注) ・ 認可時又は届出時以降、就任を辞退した全ての専任教員の就任辞退の理由を具体的に記入してください。
 ・ 「就任辞退（未就任）」とは、認可又は届出時に就任予定としながら、実際には就任しなかった教員のことです。就任した後に辞任した教員は、以下「(3) - ②専任教員辞任の理由及び後任補充状況」に記入してください。
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに就任を辞退した場合、赤字にて記入するとともに、「就任辞退（未就任）の理由」に就任辞退の理由等及び()書きで報告年度を記入してください。
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
 ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) - ② 専任教員辞任の理由及び後任補充状況

| 番号 | 職位 | 専任教員氏名 | 時期 | 必修・選択・自由の別 | 担当予定科目 | 後任補充状況 | 辞任等の理由 | | | |
|---------|----|--------------------------|----|------------|---------------|--------|-----------|----|-----------|----|
| | | 該当なし | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | |
| 合計 (F) | | | | | 後任補充状況の集計 (G) | | | | | |
| 辞任した教員数 | | 担当科目数の合計 (a) + (b) + (c) | | | ①の合計数 (a) | | ②の合計数 (b) | | ③の合計数 (c) | |
| 0 | 人 | 必修 | 0 | 科目 | 必修 | 0 | 科目 | 必修 | 0 | 科目 |
| | | 選択 | 0 | 科目 | 選択 | 0 | 科目 | 選択 | 0 | 科目 |
| | | 自由 | 0 | 科目 | 自由 | 0 | 科目 | 自由 | 0 | 科目 |
| | | 計 | 0 | 科目 | 計 | 0 | 科目 | 計 | 0 | 科目 |

- (注) ・ 一度就任した後に、定年による退職以外の理由で辞任した全ての専任教員について記入してください。
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等及び()書きで報告年度を記入してください。
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
 ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) - ③ 上記(3) - ① ・ (3) - ② の合計

| 合計 (D) + (F) | | | | | 後任補充状況の集計 (E) + (G) | | | | | |
|--------------|---|--------------------------|---|----|---------------------|---|-----------|----|-----------|----|
| 辞任等した教員数 | | 担当科目数の合計 (a) + (b) + (c) | | | ①の合計数 (a) | | ②の合計数 (b) | | ③の合計数 (c) | |
| 0 | 人 | 必修 | 0 | 科目 | 必修 | 0 | 科目 | 必修 | 0 | 科目 |
| | | 選択 | 0 | 科目 | 選択 | 0 | 科目 | 選択 | 0 | 科目 |
| | | 自由 | 0 | 科目 | 自由 | 0 | 科目 | 自由 | 0 | 科目 |
| | | 計 | 0 | 科目 | 計 | 0 | 科目 | 計 | 0 | 科目 |

(3) - ④ 設置時の計画に対する教員辞任率

$$\frac{(3) - ③ \text{合計}(D) + (F)}{(2) - ② \text{設置時の計画}(A)} = \frac{0}{11} = 0\%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) - ⑤ 定年により退職した専任教員に対する後任補充状況

| 番号 | 職位 | 専任教員氏名 | 必修・選択・自由の別 | 担当予定科目 | 後任補充状況 | 辞任等の理由 | | | |
|---------|----|--------------------------|------------|-----------|--------|-----------|------|-----------|------|
| | | 該当なし | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| 合計 | | | | 後任補充状況の集計 | | | | | |
| 辞任した教員数 | | 担当科目数の合計 (a) + (b) + (c) | | ①の合計数 (a) | | ②の合計数 (b) | | ③の合計数 (c) | |
| 0 | 人 | 必修 | 0 科目 | 必修 | 0 科目 | 必修 | 0 科目 | 必修 | 0 科目 |
| | | 選択 | 0 科目 | 選択 | 0 科目 | 選択 | 0 科目 | 選択 | 0 科目 |
| | | 自由 | 0 科目 | 自由 | 0 科目 | 自由 | 0 科目 | 自由 | 0 科目 |
| | | 計 | 0 科目 | 計 | 0 科目 | 計 | 0 科目 | 計 | 0 科目 |

- (注) ・ **定年により退職した全ての専任教員**について記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等及び() 書きで報告年度を記入してください。
 - ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 専任教員が担当する (している) 場合は「①」 ・ 兼任兼担教員が担当する (している) 場合は「②」 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」 |
|---|

(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

| |
|---|
| <p>※辞任等が生じた場合の対応 専任教員が辞任した場合でも、大学院としての組織及び各講座として教育体制の維持をしており、学生の履修等への影響はない。学生にはシラバス等にて周知している。</p> |
|---|

- (注) ・ 上記 (3) の専任教員辞任等による学生の履修等への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

6 附帯事項等に対する履行状況等

| 区 分 | 附 帯 事 項 等 | 履 行 状 況 | 今後の の実施計画 |
|------------------|---|---|---|
| 認 可 時 (平成31年) | 「倫理委員会主催の講演会」及び「E-Learning」を活用して1コマとする場合には、当該科目の講義内容と照らして適切に対応すること。 | 遵守事項 「倫理委員会主催の講演会」及び「E-Learning」を活用して1コマとする場合は、提出されたレポートを担当教員が評価することで、講義内容と照らして適切に対応する。 | 履行中 |
| 認 可 時 (平成31年) | 「発達臨床心理学特論」については、授業方法が演習と思われるが、シラバスでは講義科目として記載されている。また、「犯罪心理学特論」の授業計画が、「第〇回～第〇回」と記載されており各回の授業内容が不明確なほか、「心身医学と心理支援」の成績評価について、平常点という記載があり、学生に誤解を招くシラバスの表現が見受けられたため、シラバスの記載について網羅的に確認し誤解を招く表現は改めること。 | 遵守事項 「発達臨床心理学特論」のシラバスの授業形態を演習に修正した。 「犯罪心理学特論」の授業計画の記載及び「心身医学と心理支援」の成績評価について、学生に誤解されないように記載を修正すると共に、学生に誤解を招くシラバスの表現について、シラバスの記載を網羅的に確認し誤解を招く表現を改めた。(別紙1参照) | 履行済 |
| 認 可 時 (平成31年) | 「医療実習」という記載については、医療行為をする実習と誤解を招く恐れがあるため、履修の際に学生に対して適切に説明するか、医療分野実習などの誤解を招かない表現に改めることが望ましい。 | 履修説明の際に学生に対して適切に説明を行うこととした。 | 履行済 |
| 認 可 時 (平成31年) | 「産業・労働分野」及び「司法・犯罪分野」の実習先を確保すること。 | 遵守事項 産業・労働分野及び司法・犯罪分野の実習先を各一カ所確保した。今後更なる実習先確保のため努力を行う。(別紙2参照) 産業・労働分野：香川県庁 司法・犯罪分野：高松少年鑑別所 | 履行済 |
| 認 可 時 (平成31年) | 研究者を目指す学生が入学することも想定されるため、研究者を目指す学生に対しての配慮に努めることが望ましい。 | 研究者を目指す学生に対して、適切な履修指導を行うことで臨床心理学の分野において、自らの論理的思考に基づき研究を計画及び遂行する能力とともに、その成果を発表し議論できる能力を育成する。 | 履行中 論理的思考に基づき研究を計画・遂行・論議する能力を修得させるために、臨床心理学の研究に関する科目を実施する。 |
| | | | |
| | | | |
| | | | |

(注) ・ 「認可時」には、認可時または届出時に付された附帯事項（学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る附帯事項を除く。）と、それに対する履行状況等について、具体的に記入してください。

- ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該年度の調査の結果、**当該大学に付された指摘を**全て記入するとともに、付された指摘に対する履行状況等について、具体的に記入してください。その履行状況等の参考となる資料があれば、添付してください。
- ・ 「履行状況」では、履行中であれば「履行中」、履行が完了していれば「履行済」を選択してください。
- ・ 該当がない場合には、「附帯事項等」の部分に「該当なし」と記入してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該調査の実施年度の年を記入してください。

7 その他全般的事項

<香川大学大学院医学系研究科 臨床心理学専攻>

(1) 設置計画変更事項等

| 設置時の計画 | 変更内容・状況、今後の見通しなど |
|---|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・全ての授業を対面で実施することを前提としている。 ・入学定員の充足について | <p>新型コロナウイルス感染対策のため、すべての前期授業を多様なメディアを高度に用いて実施している状況である。今後、対面授業をいつから再開するかは大学として慎重に判断を行う。</p> <p>令和2年度入試においては、定員10人と同数の10人が出願し、入学者は6人であった。同年度入試の広報は、設置認可後の9月からの開始となり、出願期間の11月下旬には既に進路先が決定している者が多かったため、こうした状況となったが、令和3年度の入試については、年度当初から入試広報を行い、定員充足を目指す。</p> |

(注) ・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの（未実施を含む。）及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。

(2) 教員の資質の維持向上の方策（FD・SD活動含む）

| |
|---|
| <p>① 実施体制</p> <p>a 委員会の設置状況 医学部教育センター FD委員会</p> <p>b 委員会の開催状況（教員の参加状況含む） 開催回数：年1回 令和2年2月13日開催 委員出席数7名／（12名）</p> <p>c 委員会の審議事項等</p> <p>議題1 2020年度FD委員会委員について 議題2 2019年度FDおよび授業公開実施報告について 議題3 2020年度FD実施計画（年間スケジュール）について 議題4 新任教員研修プログラムについて 議題5 その他</p> <p>② 実施状況</p> <p>a 実施内容</p> <p>【令和2年度予定FD】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・CBTに関するFD ・CBT作問に関するワークショップ型FD ・チュートリアル・PBLチュートリアルFD ・授業公開『病理解剖（病理学Ⅰ）』（腫瘍病理学） ・授業公開『多発性骨髄腫と類縁疾患（血液系ユニット）』（血液・免疫・呼吸器内科） ・授業公開『未定（医学科講義）』 ・授業公開『未定（看護学科講義）』 ・授業公開『公認心理士の職責（心理士実践職能論）』 ・医学部倫理委員会 教育訓練講習会（令和2年度 第1回～第6回） ・医学部教育センターFD ・看護学科入試に関するFD ・障害学生に関するFD ・DRI教育に関するFD ・海外留学報告会（年間2回実施予定） |
|---|

b 実施方法 講演会方式

c 開催状況（教員の参加状況含む）

【令和元年度開催状況】

- ・ CBTに関するFD 3月22日 44人
- ・ 看護学科入試に関するFD(1) 4月17日 24人
- ・ 授業公開『『生殖系ユニット』 4月17日 22人
- ・ チュートリアル・PBLチュートリアルFD 5月8日 40人
- ・ 医学部研究戦略セミナー(臨床心理学科研究発表会) 5月20日 91人
- ・ 医学部倫理委員会 教育訓練講習会(令和元年度第1回) 5月29日 280人
- ・ 授業公開『腎・泌尿器ユニット』 6月19日 9人
- ・ 看護学科入試に関するFD(2) 6月25日 21人
- ・ 医学部倫理委員会 教育訓練講習会(令和元年度第2回) 6月27日 213人
- ・ 第1回海外留学事業報告会 7月3日 16人
- ・ 医学部研究戦略セミナー(科研説明会) 7月8日 144人
- ・ DRI教育に関するFD 7月17日 56人
- ・ 授業公開『チュートリアル発表会』 7月3日 17人
- ・ コンピテンシー設定のためのFD 7月20日 36人
- ・ 授業公開『皮膚感覚系ユニット』 8月29日 10人
- ・ 障害のある学生に対する支援に関するFD・SD 9月26日 57人
- ・ 医学教育ワークショップ : 学習者評価の考え方、方法、可否判定についてのFD講演会 9月30日 50人
- ・ 医学部研究戦略セミナー(香川大学創立70周年記念事業) 10月8日 83人
- ・ 第2回海外留学事業報告会 10月9日 20人
- ・ 医学部倫理委員会 教育訓練講習会(令和元年度第3回) 10月31日 122人
- ・ 医農連携セミナー 11月11日 41人
- ・ 医学部倫理委員会 教育訓練講習会(令和元年度第4回) 11月28日 204人
- ・ 授業公開『形態・生理学B』 12月16日 14人
- ・ 授業公開『早期体験学習』 1月29日 11人
- ・ 医学部倫理委員会 教育訓練講習会(令和元年度第5回) 1月30日 159人
- ・ 医学部倫理委員会 教育訓練講習会(令和元年度第6回) 3月25日 190人

d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

教員の資質向上のため、毎年、年間を通じて多様な分野・領域からの講習会を開催している。いずれの講習会も授業担当教員としての責務の再確認に有益なだけでなく、医学教育の基盤を拡充させる新たな取り組みを啓発する内容である。今後も、医学部教育の充実を重視したFDの開催計画に取り組むことを予定している。

③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況

a 実施の有無及び実施時期

各科目の終了毎に実施

b 教員や学生への公開状況、方法等

アンケート集計結果は教職員HPで公表しフィードバックしている。学生にも紙媒体で公表している。

(3) 教育課程連携協議会に関する事項

※専門職大学、専門職短期大学、専門職大学院以外は「該当なし」と記入ください。

該当なし

(4) 自己点検・評価等に関する事項

① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

香川県の「心理援助者」に対する需要動向や、県内の臨床心理士会からの要望等を踏まえ、令和2年度に臨床心理学専攻を設置した。

令和2年度入試においては、定員10人と同数の10人が出願し、入学者は6人であった。同年度入試の広報は、設置認可後の9月からの開始となり、出願期間の11月下旬には既に進路先が決定している者が多かったため、こうした状況となったが、令和3年度の入試については、年度当初から入試広報を行い、定員充足を目指す。

教員については、計画どおり専任教員11人を配置するとともに、本学独自に特命助教（非常勤・フルタイム）を2人配置しており、心理援助の実践と研究を通して、グローバルな視野で地域住民の福祉・医療の充実・発展に寄与できる心理援助者の育成に努めている。

② 自己点検・評価報告書

a 公表（予定）時期

- ・令和3年度に自己点検評価（大学全体）を実施予定

b 公表方法

- ・大学ホームページ上に公開予定

③ 認証評価を受ける計画

- ・令和4年度に機関別認証評価を受けるべく、学内で検討中

（注）・ 設置時の計画の変更（又は未実施）の有無に関わらず記入してください。

また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。

なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

(5) 情報公表に関する事項

○ 設置計画履行状況報告書（令和2年度）

- a 公表予定の有無 [(有) ・ 無]

《 a で「有」の場合》

- b 公表（予定）時期 [調査結果公表後1ヶ月以内 ・ 公表後2～3ヶ月以内 ・ 公表後3ヶ月以降]

- c 公表方法 [ウェブサイトへの掲載]

《 a で公表「無」の場合》

- d 公表しない理由 []

※設置計画が各大学等が社会に対して着実に実現していく構想を表したものであることに鑑み、

設置計画履行状況報告書については、各大学等のウェブサイト上に公表するなど、積極的な情報提供をお願いします。